授業科目名	学力と評価(2100111)		
時間割名	学力と評価(13110)		
時間割担当	鎌田首治朗		
実施期	前期	単位数	2　選択
曜日・時限	月・3		

■授業の目標・概要

学校教育における教育評価は、児童・生徒である学習者を直接的には対象とする。間接的には、学習者へ評価を通して、教師に対する評価、カリキュラムに対する評価などを行う。教育行政システムなどに対する評価というものもあるが、最終的にはすべて学習者のために結びつくものである。教育評価は、知能検査、標準学力テストなどの測定するもの、検定試験や表彰などの査定するものなど、いろんな側面があるが、一番重要なことは、学習者をある一定水準以上の学力を持たせるために、学習者がどの程度学習目標を達成しているかどうかをみることである。本講義では、学力と評価のあり方についてその歴史と理論を学ぶ。

■学習の到達目標

①子どもたちの学力保障と成長保障に責任をもつ教育評価のあり方を理解している。
②教育評価を通して自らの教師としてのあり方と指導のあり方を磨いていく教師としてのあり方を理解している。
③教育評価の基礎知識の獲得を通して、①、②をより豊かに深めようとしている。

■授業方法・形式

1. 予習は必須である。予告された学習課題に対する自分の意見、理由【根拠】をワークシートに記入して出席する。
2. 自分の意見を全体に発表する。聞き手は、自分の意見よりもすぐれた意見があるかどうかを見極める目的で発表を聴く。
3. 自分がその時間の中で、自分に取り入れるべきすぐれた意見であると考える意見を、理由と共に発表する。

■授業計画

第１回　授業の目的、概要
　　学習ルールとマナー、評価、参考文献の紹介、自己紹介等
第２回　第３回以降の学習の流れを役割分担の計画、「第１部」の読み合わせ
第３回　相対評価、絶対評価、到達度評価、個人内評価
第４回　認知と情意について、達成目標、向上目標、体験目標（１）
第５回　認知と情意について、達成目標、向上目標、体験目標（２）
第６回　指導と評価の一体化、ＰＤＣＡ
第７回　診断的評価、形成的評価、総括的評価
第８回　マスタリーラーニング
第９回　教育目標の分類学
第10回　目標分析
第11回　キー・コンピテンシー、新しいタキソノミー（１）
第12回　課題発表の説明と役割分担計画、「キー・コンピテンシー、新しいタキソノミー（２）」
第13回　課題発表
第14回　課題発表
第15回　まとめ
　　獲得できた学びと課題をふりかえり、まとめ、交流し、自らの学びを豊かに深める。

■成績評価の基準

予習の達成状況、授業における自主的発表、集団に貢献した行為（40%）学習課題に対する意見の質、課題を追究する意欲的姿勢、すぐれた意見を評価できる力（40%）科目試験（20%）

■授業時間外の課題

予習は受講生が受講するための必須要件である。

■メッセージ

講義時間内にお伝えします。

■教材・教科書

梶田叡一・加藤明編著『改訂　実践教育評価事典』文溪堂、2010.8

■参考書

梶田叡一『教育における評価の理論Ⅰ』1994.6
梶田叡一『教育における評価の理論Ⅱ』1994.6